

報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F

TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

BCN総研 高溝 靖規

<http://www.computernews.com/marketview>

新機種登場で盛り返すデジタルカメラ市場 「FinePix F401」のヒットで、富士フィルムがシェアトップに

株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研は、「BCNランキング」*から、デジタルカメラ店頭市場の販売動向を週次ベースで集計した。やや停滞していたデジタルカメラ市場は、6月に入ってから販売台数が急速に伸びている。各メーカーから矢継ぎ早に投入されたスリム&コンパクトモデルが好調なためだ。とりわけ、富士フィルムの「FinePix F401」の売れ行きは顕著で、ベンダー別シェアトップ獲得に大きく貢献している。

*BCN総研は、東名阪のパソコン大手販売会社12社（エイデン、大塚商会＝ランド、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、上新電機、ソフマップ、九十九電機、T-ZONE、ニノミヤ、ビックピーカン、ワンダーコーポレーション＝50音順）522店舗（2002年04月01日現在）の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています（毎月第2、第4金曜日の発行となります）。

4月以降停滞気味であったデジタルカメラの店頭市場は、6月に入ってから販売が上向き始めている。とくにワールドカップで日本代表がトルコに敗れた6月3週（6月17日～23日）以降は、より動きが活発となり販売数で大きな伸びを示している。そして、7月1週（7月1日～7日）には、前年同期比17%増（台数ベース）に至るほどの盛り返しをみせている。（図1）

市場活性化の原動力となっているのが、6月に登場した一連の新モデルである。ソニー「Cyber-shot P2」、カシオ計算機「EXILIM」シリーズ、そして富士フィルム「FinePix F401」などの売れ行きが、発売直後から急速に伸びている。（図2）

とりわけ、「FinePix F401」の人気は高く、発売週（6月3週）以後、3週連続で機種（型番）別ランキングでトップを獲得している。その立ち上がりは、3月4週以降12週間のランキング1位モデルの平均販売台数を、2倍以上上回っている。（これは、2001年10月発売され大ヒットとなったソニー「Cyber-shot P5」発売直後の動きに似ている。）

その結果、オリンパスやキャノンの後塵を拝していた富士フィルムのベンダーシェアは、一気に上がりトップに躍り出た。そして、機種別ランキングと同様に3週連続トップシェアを維持している。（図3）

また、5%前後で推移していたカシオ計算機のシェアも、「EXILIM」シリーズの投入後、10%を越えるまで上昇している。

100～200万画素クラスながら、スリム・コンパクト・すぐ撮れる、という「軽快感」あるモデルの売れ行きが目覚ましいことから、ソニーから7月下旬発売予定の100万画素クラスの小型モデルが加わることで、市場は一層の拡大が予想される。

* 本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。

赤島までご連絡下さい（akashima@bcn.co.jp）。

図1 デジタルカメラ店頭市場の販売台数推移と前年同期比

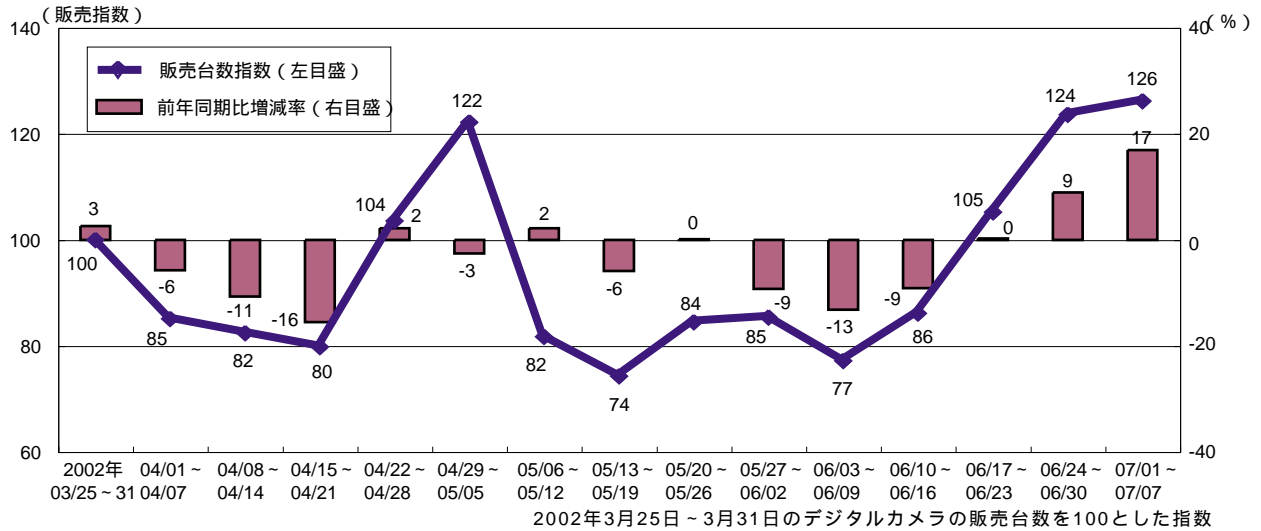


図2 6月発売モデルの販売台数推移

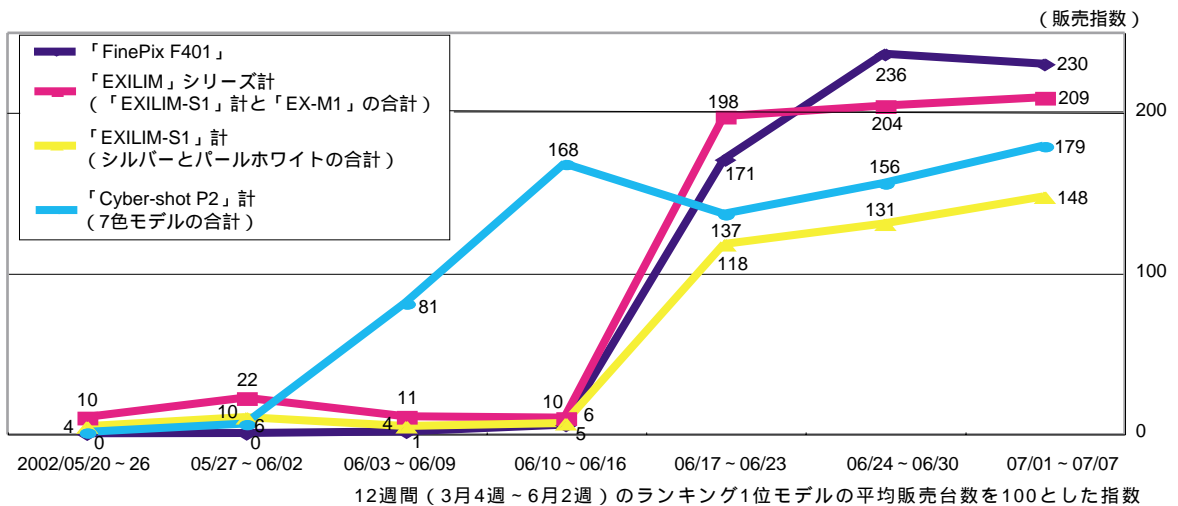


図3 デジタルカメラ店頭市場のベンダー別販売台数シェア推移

